Version: 05
Update (MM/DD/YYYY): 06/05/2026

安全データシート

項目 1: 化學物質の識別と企業識別

1.1 製品識別子

化学物質等の名称	AmMag™ Quatro Endotoxin-Free Plasmidplus Purification Mini Kit
製品コード	L01106
CAS 番號	適用できない
EC 番號	適用できない
分子式	適用できない

1.2 製品の推奨使用方法と使用上の制限

推奨用途	研究用のみ
使用上の制限	臨床実験、診断または人間や動物の治療などの医療目的に使用してはならない

1.3 安全データシートの供給元の詳細

會社名	ジェンスクリプトジャパン株式会社
會社の住所	東京都千代田区神田東松下町 48 ism 神田 4F
郵便番号	〒101-0042
電話番號	03-6811-6572
ファックス番號	03-6811-6573
電子メールアドレス	product@genscript.com

1.4 緊急連絡電話番號

緊急連絡電話番號	03-6811-6572

項目 2: 危険有害性の要約

2.1 化學品の GHS 分類

皮膚腐食性／刺激性	区分 2
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分 2
特定標的臓器毒性 – 単回ばく露	区分 2
水生環境有害性-短期（急性）	区分 3

2.2 GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語 警告

2.3 危険有害性情報

H315	皮膚刺激
H319	強い眼刺激
H371	臓器の障害のおそれ
H402	水生生物に有害

2.4 注意書き

2.4.1 安全対策

P260	ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないでください。
P264	取り扱い後は手や體の他の部分（関連する場合）をよく洗ってください。
P270	この製品を使用するときに，飲食又は喫煙をしないこと。
P273	環境への放出を避けること。
P280	保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を著用すること。
P264+P265	取り 扱い 後は 手や體の他の部分（関連する 場合）をよく洗ってください。眼を触らないこと。

2.4.2応急措置

P321	特別な治療（ラベルの関連指示を参照）。
P302+P352	皮膚に付著した場合：多量の水で洗うこと。
P308+P316	ばく露又はその懸念がある場合：すぐに救急の医療処置を受けるこ と。
P337+P317	眼の刺激が続く場合：医療処置を受けること。
P362+P364	汚染された衣類を脱ぎ，再使用する場合には洗濯をすること。
P305+P351+P338	眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを著用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

2.4.3保管

P405	施錠して保管すること。

2.4.4廃棄

P501	内容物/容器は、地域/地域/國家/國際規制に従って廃棄してください。

2.5 危険の説明

2.5.1 物理的および化學的危険性	データなし。

2.5.2健康被害

吸入した場合	製品を吸入すると、不快感に続いて健康に悪影響を与えたり、呼吸器官に炎症を起こしたりする可能性があります。

飲み込んだ場合	製品を誤って摂取すると、人の健康に害を及ぼす可能性があります。
皮膚に付着した場合	この製品は皮膚に直接接触すると皮膚炎症を引き起こす可能性があります。
眼に入った場合	この製品は重度の眼の炎症を引き起こす可能性があります。目に直接触れると、重度の炎症と痛みが生じる可能性があります。
2.5.3環境ハザード	この製品は水生生物に有害です。SDS 第 12 章を参照してください。

項目 3: 組成及び成分情報

3.1 物質/混合物

成分	CAS 番號	EC 番號	濃度（重量パーセント、%）
AmMag™ Endotoxin-Free Buffer S2			
水	7732-18-5	231-791-2	98-99
水酸化ナトリウム	1310-73-2	215-185-5	≥ 0.1-≤ 1
ラウリル硫酸ナトリウム	151-21-3	205-788-1	＜1
AmMag™ Endotoxin-Free Buffer S3			
水	7732-18-5	231-791-2	50-80
酢酸	64-19-7	200-580-7	10-20
酢酸カリウム	127-08-2	204-822-2	15-30

商業上の機密保持のため、特定の非有害成分の具体的な内容は開示されておりません。

項目 4: 応急措置

4.1 応急措置の説明

一般的なアドバイス	直ちに医師の診察が必要です。担当の医師にこの安全データシート(SDS)を見せてください。
眼に入った場合	少なくとも 15 分間、多量の水で十分に洗い流し、不快感がある場合は医師に相談してください。
皮膚に付着した場合	汚染された衣服や靴を直ちに脱いでください。石鹸と水で少なくとも 15 分間洗い流し、不快感がある場合は医師に相談してください。
飲み込んだ場合	意識のない人に口から何も与えないでください。すぐに医師または中毒管理センターに連絡してください。
吸入	被害者を新鮮な空気のある場所に移動させてください。呼吸が困難な場合は、酸素を投与してください。被害者が物質を摂取または吸入した場合は、口対口の人工呼吸器を使用しないでください。呼吸していない場合は、人工呼吸器を使用し、直ちに医師 の診察を受けてください。
応急措置をする者の保護に必要な注意事項	医療従事者が関係する物質を認識していることを確認してください。自分自身を保護し、汚染の拡大を防ぐための予防措置を講じてくださ

い。

4.2 急性症状及び遅発性症状の最も重要な微候症状

1	繰り返しまたは長期間の職業上の暴露により、人体への物質の蓄積が起こり、懸念が生じる可能性があります。

4.3 応急措置をする者の保護に必要な注意事項

1	発火源をすべて取り除き、換気を強化してください。
2	皮膚や目に触れないようにしてください。
3	蒸気やミストを吸入しないでください。
4	呼吸器を含む個人用保護具を使用してください。

4.4 医師に対する特別注意事項

1	症状に応じて治療します。
2	症状が遅れて現れる場合があります。

項目 5: 火災時の措置

5.1 消火剤

適切な消火剤	周囲の状況に適した消火剤を使用してください。
使ってはならない消火剤	使用できる消火器の種類に制限はありません。

5.2 火災時の特有の危険有害性

1	火災が発生した場合、危険な燃焼ガスまたは蒸気が発生する可能性があります。
2	加熱または火災により爆発的に膨張または分解する恐れがあります。

5.3 特有の消火方法

1	発火源から遠ざけてください。
2	禁煙。
3	汚染された消火水は別途収集し、排水溝に排出しないでください。
4	火災残留物および汚染された消火水は、現地の規制に従って処分する必要があります。

5.4 消防士の保護

1	あらゆる火災の場合と同様に、自給式呼吸装置（MSHA/NIOSH 認定または同等のもの）と完全な保護具を着用してください。
2	十分なカバーを備え、安全な距離から消火活動に取り組んでください。
3	消火水が地表水や地下水系を汚染するのを防ぎます。

項目 6: 漏出時の措置

6.1 人體に対する注意事項，保護具及び緊急時措置

1	十分な換気を確保してください。発火源をすべて取り除いてください。静電気放電に対する予防措置を講じてください。
2	安全な場所に人員を避難させてください。流出/漏れから人を遠ざけ、風上に避難させてください。
3	個人用保護具を使用し、ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないでください。

6.2 環境に対する注意事項

1	安全であれば、それ以上の漏れやこぼれを防いでください。
2	環境への排出は避けなければなりません。

6.3 封じ込め及び浄化の方法及び機材

1	漏れた液体は換気の良い場所に保管してください。
2	漏れの原因を可能な限り遮断してください。
3	付着または収集された物質は、適切な法律および規制に従って速やかに処分する必要があります。
4	流出した物質を乾燥した砂または不活性吸収剤に吸収させてください。大量に流出した場合は、防護壁などで流出を封じ込めてください。
5	流出物を封じ込め、電気保護付き掃除機または濡れたブラシで集めて容器に回収します。

項目 7: 取扱い及び保管上の注意

7.1 安全な取り扱いのための注意事項

1	取り扱いは換気の良い場所で行ってください。
2	適切な保護具を着用してください。
3	皮膚や目に触れないようにしてください。
4	熱/火花/裸火/高温のものから遠ざけてください。

7.2 安全な保管條件

1	容器はしっかりと閉めてください。
2	容器は乾燥した涼しい、換気の良い場所に保管してください。
3	熱/火花/裸火/高温のものから遠ざけてください。
4	不適合な材料や食品容器から離して保管してください。

7.3 安全な容器包装材料

安全な容器包装材料	データなし

項目 8: ばく露防止及び保護措置

8.1 管理濃度

8.1.1職業暴露限界値

成分	データソース	OELs	特定の制限	
			ppm	mg/m³
水酸化ナトリウム	日本 - JSOH（2024～2025年）	TWA	-	-
		Celing	-	2
酢酸	日本 - JSOH（2024～2025年）	TWA	10	25
		Celing	-	-
	米国-ACGIH	TWA	10	-
		Celing	15	-

8.1.2生物学的ばく露指標

生物学的ばく露指標 関連する規制はありません

8.1.3 監視方法

1 EN 14042 職場の雰囲気。化学物質および生物剤への暴露を評価するための手順の適用および使用に関するガイド。

2 GBZ/T 300 および GBZ/T 160 シリーズ規格 職場空気中の有害物質の測定

8.2 設備対策

1 特に密閉された場所では、十分な換気を確保してください。

2 洗眼ステーションと安全シャワーが作業場所の近くにあることを確認してください。

3 緊急出口と必要な危険排除エリアを設定します。

4 適切な産業衛生および安全基準に従って取り扱ってください。

8.3 保護具

一般的な要件



眼の保護具 適切な安全メガネを着用する必要があります。

手の保護具 適切な化学保護手袋を着用する必要があります。

呼吸器の保護具 適切な個人用呼吸保護具を着用する必要があります。

皮膚及び身體の保護具 適切な化学防護服と耐薬品性の靴を着用する必要があります。

項目 9: 物理的及び化学的性質

9.1 物理的及び化學的性質

物理狀態 試薬キット（様々な試薬を含んでいます）

色 無色/黒（液体）

臭い データなし

臭気閾値 データなし

pH	データなし
融點／凝固點(℃)	データなし
初留點及び沸點範囲(℃)	データなし
引火点(密閉式, ℃)	データなし
蒸発速度	データなし
可燃性	不燃性
爆発上限界/下限界[%(v/v)]	上限: データなし; 下限: データなし
蒸気圧	データなし
相対ガス密度（空気＝1)	データなし
相対密度(水＝1)	データなし
溶解度(mg/L)	与水部分混溶
n-オクタノール/水分配係数	データなし
自然発火點(℃)	データなし
分解溫度(℃)	データなし
動粘性率	データなし
粒子特性	適用できない

項目 10: 安定性及び反応性

10.1 安定性及び反応性

反応性	互換性のない物質と接触すると、分解やその他の化学反応を引き起こす可能性があります。
化學的安定性	適切な操作および保管条件下では安定しています。
危険有害反応可能性	本製品は不燃性であり、重大な火災の危険性はありません。
避けるべき條件	互換性のない物質、熱、炎、火花。
混触危険物質	金属アルコキシド 、フルフリルアルコール、アセトアルデヒド、硝酸、硝酸塩、亜硝酸塩、オキシ酸塩ハロゲンおよび無機過酸化物。
危険有害な分解生成物	通常の保管および使用条件下では、危険な分解生成物は生成されません。

項目 11: 有害性情報

11.1 急性毒性

成分	LD_{50}(オーラル)	LD_{50}(皮膚)	LC_{50}(吸入,4h)
ラウリル硫酸ナトリウム	1288mg/kg(ねずみ)	600mg/kg(うさぎ)	データなし
酢酸	3310mg/kg(ねずみ)	1130mg/kg(うさぎ)	データなし
酢酸カリウム	3250mg/kg(ねずみ)	データなし	データなし

11.2 発がん性

成分	IARC モノグラフによる発がん性物質の	NTP による発がん性物質に関する

	リスト	報告書
水	リストに載っていない	リストに載っていない
水酸化ナトリウム	リストに載っていない	リストに載っていない
ラウリル硫酸ナトリウム	リストに載っていない	リストに載っていない
酢酸	リストに載っていない	リストに載っていない
酢酸カリウム	リストに載っていない	リストに載っていない

11.3 その他

皮膚腐食性／刺激性 皮膚刺激(区分 2)

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 強い眼刺激(区分 2)

皮膚感作性 入手可能なデータに基づくと、分類基準は満たされていない

呼吸器感作性 入手可能なデータに基づくと、分類基準は満たされていない

生殖毒性 入手可能なデータに基づくと、分類基準は満たされていない

STOT—単回ばく露 臓器の障害のおそれ(区分 2)

STOT—反復ばく露 入手可能なデータに基づくと、分類基準は満たされていない

誤えん有害性 入手可能なデータに基づくと、分類基準は満たされていない

生殖細胞変異原性 入手可能なデータに基づくと、分類基準は満たされていない

項目 12: 環境影響情報

12.1 水生環境急性有害性

成分	魚	甲殻類	藻類またはその他の水生植物
ラウリル硫酸ナトリウム	LC_{50}: 29mg/L (96h) (淡水魚)	EC_{50}: 9.8mg/L (48h) (オオミジンコ)	ErC_{50}: 9.46mg/L(96h) (淡水藻類)
酢酸	LC_{50}: 300.82mg/L (96h) (淡水魚)	EC_{50}: 65mg/L (48h) (オオミジンコ)	データなし
酢酸カリウム	LC_{50}: 496.35mg/L(96h) (淡水魚)	データなし	データなし
水酸化ナトリウム	LC_{50}: 196mg/L (96h) (魚)	EC_{50}: 40.4mg/L (48h) (オオミジンコ)	データなし

12.2 水生環境慢性有害性

成分	魚	甲殻類	藻類またはその他の水生植物
酢酸	NOEC: 34.3 ~57.2mg/L(魚)	データなし	データなし

12.3 残留性・分解性

成分	持続性（水/土壌）	持続性（空気）

ラウリル硫酸ナトリウム	高	高
酢酸	低	低

12.4 生態蓄積性

成分	生態蓄積性	コメント
ラウリル硫酸ナトリウム	低	BCF=7.15
酢酸	低	Log Kow=-0.17

12.5 土壌中の移動性

成分	log Koc	述べる	データソース
ラウリル硫酸ナトリウム	2.50	20 ℃	ECHA
酢酸	0.06	20 ℃	ECHA

12.6 PBT および **vPvB** 評価の結果

成分	**PBT** および **vPvB** 評価結果[（EC）**No. 1907/2006**、改正 **2020/878** に基づく]
水	PBTではありません
水酸化ナトリウム	適用できない
ラウリル硫酸ナトリウム	PBT/vPvBではない
酢酸	PBTではありません
酢酸カリウム	PBT/vPvBではない

12.7 オゾン層への有害性

成分	モントリオール議定書の附属書	述べる
水	リストに載っていない	--
水酸化ナトリウム	リストに載っていない	--
ラウリル硫酸ナトリウム	リストに載っていない	--
酢酸	リストに載っていない	--
酢酸カリウム	リストに載っていない	--

項目 13: 廃棄上の注意

13.1 廃棄上の注意

廃棄化學物質	廃棄する前に、関連する国および地域の法律と規制を参照してください。
汚染された包装	容器は空でも化学的危険性がある可能性があります。高温や発火源から遠ざけてください。
廃棄に関する推奨事項	廃棄化学物質および汚染された包装のセクションを参照してください。

項目 14: 輸送上の注意

14.1 ラベル

輸送ラベル 適用できない

14.2 IMDG CODE

IMDG CODE 危険物の輸送は規制されていません

14.3 ICAO/IATA-DGR

ICAO/IATA-DGR 危険物の輸送は規制されていません

14.4 UN-ADR

UN-ADR 危険物の輸送は規制されていません

14.5 国内規制（船舶安全法の規定に基づく）

国内規制（船舶安全法の規定に基づく） 危険物の輸送は規制されていません

項目 15: 適用法令

15.1 國際化學物質目録

成分	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
水	√	√	√	√	√	√	√	√	√	√	√	√	√
水酸化ナトリウム	√	√	√	√	√	√	√	√	√	√	√	√	√
ラウリル硫酸ナトリウム	√	√	√	√	√	√	√	√	√	√	√	√	√
酢酸	√	√	√	√	√	√	√	√	√	√	√	√	√
酢酸カリウム	√	√	√	√	√	√	√	√	√	√	√	√	√

【A】 中國既存化學物質目録(IECSC)
【B】 歐州既存商業化學物質目録(EC inventory)
【C】 米國有害物質規制法目録(TSCA)
【D】 カナダ國内物質リスト(DSL)
【E】 ニュージーランド化學物質目録(NZIoC)
【F】 フィリピンの化學物質および化學物質目録(PICCS)
【G】 韓國既存化學物質目録(KECL)
【H】 オーストラリア。工業用化學物質目録(AIICS)
【I】 日本既存・新規化學物質目録(ENCS)
【J】 タイの既存化学物質インベントリー(TECI)
【K】 メキシコ国家化学物質目録(INSQ)
【L】 ロシアの既存物質目録(DRAFT)
【M】 台湾（中国）における既存化学物質目録(TCSI)

15.2 国際条約に基づく化学物質リスト

成分	A	B	C

水	×	×	×
水酸化ナトリウム	×	×	×
ラウリル硫酸ナトリウム	×	×	×
酢酸	×	×	×
酢酸カリウム	×	×	×

【A】　オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書
【B】　残留性有機汚染物質（POPs）に関するストックホルム条約
【C】　国際貿易における特定の危険な化学物質および農薬に関する事前の情報に基づく同意手続きに関するロッテルダム条約

15.3 安衛法 規制化学物質リスト

成分	A	B	C	D	E	F
水	×	×	×	×	×	×
水酸化ナトリウム	√	×	×	×	×	×
ラウリル硫酸ナトリウム	×（※1）	×	×	×	×	×
酢酸	√	√	×	√	×	×
酢酸カリウム	×	×	×	×	×	×

【A】　安衛法：名称等を表示し、又は通知すべき化学物質　※1：1 w/w%未満のため非該当。
【B】　安衛法：濃度基準値設定物質
【C】　安衛法：有機溶剤
【D】　安衛法：危険物
【E】　安衛法：製造等の許可を要する化学物質
【F】　安衛法：製造等が禁止されている化学物質

15.4 化審法 規制化学物質リスト

成分	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
水	×	×	×	×	×	×	×	×	√	×	×	×
水酸化ナトリウム	×	×	×	×	×	×	×	×	√	×	×	×
ラウリル硫酸ナトリウム	×	×	×	√	×	×	×	×	√	×	×	×
酢酸	×	×	×	×	×	×	×	×	√	×	×	×
酢酸カリウム	×	×	×	×	×	×	×	×	√	×	×	×

【A】　日本化審法：第一種特定化学物質
【B】　日本化審法：第二種特定化学物質
【C】　日本化審法：監視化学物質
【D】　日本化審法：優先評価化学物質
【E】　日本化審法：（取消）優先評価化学物質
【F】　日本化審法：特定一般化学物質
【G】　日本化審法：新規公示化学物質（2011年3月31日以前届出）

【H】 日本化審法：新規公示化学物質（2011年4月1日以降届出）
【I】 日本化審法：既存化学物質
【J】 日本化審法：旧第二種監視化学物質
【K】 日本化審法：旧第三種監視化学物質
【L】 日本化審法：製造輸入量の届出を要しない物質

15.5 日本におけるその他の規制化学物質一覧

成分	A	B	C	D	E
水	×	×	×	×	×
水酸化ナトリウム	×	×	×	×（※2）	指定物質
ラウリル硫酸ナトリウム	×（※1）	×	×	×	×
酢酸	×	×	×	×	×
酢酸カリウム	×	×	×	×	×

【A】 日本 PRTR法化学物質リスト
【B】 大気汚染防止法化学物質リスト
【C】 消防法：危険物
【D】 毒物及び劇物取締法 化学物質リスト
【E】 日本水質汚濁防止法

※1：1 w/w%未満のため非該当。
※2：1 w/w%以下のため非該当。

注記:
"√" は規制対象物質であることを示します。
"×" データが無い、または規制に含まれていない。

項目 16: その他の情報

16.1 Information on revision

16.1 改訂に関する情報

作成日	2026/01/27
改訂日	2026/06/05
改訂理由	-

16.2 参照

【1】 IPCS: 國際化學物質安全性カード（ICSC）、ウェブサイト: http://www.ilo.org/dyn/icsc/showcard.home.
【2】 IARC、ウェブサイト: http://www.iarc.fr/.
【3】 OECD: 化學物質情報の世界ポータル、ウェブサイト: https://www.echemportal.org/echemportal/.
【4】 CAMEO Chemicals、ウェブサイト: http://cameochemicals.noaa.gov/search/simple.
【5】 NLM: ChemIDplus、Web サイト: http://chem.sis.nlm.nih.gov/chemidplus/chemidlite.jsp.
【6】 EPA: 統合リスク情報システム、ウェブサイト: http://cfpub.epa.gov/iris/.
【7】 米國運輸省: ERG、ウェブサイト: http://www.phmsa.dot.gov/hazmat/library/erg.
【8】 ドイツ GESTIS 危険物質データベース、ウェブサイト: http://gestis-en.itrust.de/.

16.3 略語と頭字語

CAS	ケミカルアブストラクトサービス	UN	國連
PC-STEL	短期暴露限界	OECD	経済協力開発機構
PC-TWA	時間加重平均	IMDG-CODE	國際海上危険物規則
MAC	最大許容濃度	IARC	國際がん研究機関
DNEL	導出された無影響レベル	ICAO	國際民間航空機関
PNEC	予測無影響濃度	IATA	國際航空運送協會
NOEC	影響が認められない濃度	ACGIH	アメリカ政府産業衛生専門家會議
LC_{50}	致死濃度 50%	NFPA	全米防火協會
LD_{50}	致死量 50%	NTP	國立毒性學プログラム
EC_{50}	有効濃度 50%	PBT	持続性、生體蓄積性、毒性
EC_X	有効濃度 X%	vPvB	非常に持続性があり、生體蓄積性が高い
P_{OW}	分配係數 オクタノール：水	CMR	発がん性物質、変異原性物質、生殖毒性物質
BCF	生物濃縮係數	RPE	呼吸保護具
ED	内分泌かく亂物質	G1	ヒトに対して発がん性がある
G2A	おそらくヒトに対して発がん性がある	G2B	ヒトに対して発がん性がある可能性がある
G3	ヒトに対して発がん性があるとはまだ分類されていない	G4	おそらくヒトに対して発がん性はない

16.4 免責事項

この安全データシート（SDS）は、JIS Z 7253:2012 に従って作成されました。含まれるデータは、國際的に権威のあるデータベースから取得され、企業によって提供されました。その他の情報は、當社の現在の知識に基づいています。當社はすべての情報の正確性を確保するよう努めていますが、情報源の多様性と當社の知識の限界により、この文書はユーザーの参考のみを目的としています。ユーザーは、特定の目的に対するこの情報の適合性について、獨自の判斷を行う必要があります。當社は、製品の取り扱い、保管、使用、または廃棄から生じる、または何らかの形で関連する損失、損害、または費用について責任を負いません。

研究用のみ。ヒトまたは動物を対象とした臨床試験、治療、あるいは診断への使用を目的としたものではありません。

Manufacturer: Nanjing GenScript Biotech Co., Ltd.　No. 28 Yongxi Road, Jiangning District, Nanjing, Jiangsu, China